



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

戎っさん

大阪人の正月は1月1日には来ない。10日にある「戎っさん」を過ぎないと、本当の年明けではないとみんなが思っている。

戎大黒天をお祭りしている今宮戎神社で行われる行事なのだが、これこそが商売の神様。つまり大阪人の神様なんである。みんな親しみを込めて「戎っさん（えべっさん）」と呼んでいる。

9日が宵戎、10日が本戎、11日が残り戎と言われている、3日間通う人もあれば、好きな日に行く人、残り福があるからおめでたい最後の日に行く人と様々だ。行かないにしても、大阪中が戎っさんのニュースを

見ないと正月が明けた気にはならない。

戎っさんに行くと、誰でも笹を貰える。その笹に商売繁盛のお札やグッズを買ってつけてもらうのが一般的だ。笹をつけてくれるのは「福娘」という、このお祭のために選ばれたキュートで明るい女の子達である。大阪では福娘に選ばれたら結婚にハクがつくとさえ言われている。今年は3000人以上の応募があつて、50人が選ばれたらしい。彼女達が「ようお参り」と言いながらつけてくれる商売繁盛のグッズに願いを込めて、商売人はその笹を大事に家に持って帰るわけだ。

戎っさんに行つて笹を貰い歩いてると面白い現象がおきる。その笹を見るたびに知らない人が声をかけてきたり、奇声を発するからである。

「お姉ちゃん、戎っさん行ってきたん？」

「戎っさんかいな？」

「しもた！そうか！」

「あー、そうや！」

などなど、それぞれが「今日は戎っさんか」とか「しまった、行くの忘れた」などという思いを声に出して表現するのが大阪人の特長だ。

写真はその笹につけてもらったグッツと一緒に付けてくる札に付いた、戎っさんの顔である。皆さんにも福をおすそ分けというところだ。今年は何売繁盛でいきたいものである。

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
